

写真で見る福井県における災害発生地点の今と昔

福井工業高等専門学校 正会員 吉田 雅穂

福井工業高等専門学校 ○丹羽さくら

金沢大学工学部 正会員 宮島 昌勝

金沢大学大学院 フェロー会員 北浦 勝

1. はじめに

人々の住む町の風景は、建設工事などにより日々変化しているが、比較的サイクルの長い大災害、例えば地震、台風、洪水、大雪などの自然の営みや、人為的な公害によって時として大きな変化を生じることもある。災害直後はその悲惨な風景を目の当たりにして、二度とこれを繰り返すまいと強く感じるが、月日が流れていつの間にかその風景は日常の風景となり、過去の惨状は人々の心から消え去ってしまう。著者らはこれまで、地域の地震防災や防災教育に関する研究を実施してきており、被災地の人々の防災意識を向上させ、さらに継続させていくためには、単に過去の災害の出来事を言葉として伝えるだけでは不十分であり、人々の住む地域に発生した災害前後の風景の変化を視覚的に伝えることも重要であると考えている。福井県においては 1948 年の福井地震、1963 年と 1981 年の豪雪、1997 年のナホトカ号重油流出事故など、これまで数多くの災害が発生しているが、これらの災害から得られた教訓がその後の人々の防災意識の向上とその継続にうまく活用されているか、という点については少なからず疑問を感じている。

そこで、本研究では、前に挙げた災害の被災直後の状況と現在の無被害の状況とを対比することにより、当時の悲惨な状況をより浮き彫りにすることを目的として、数多く残る災害記録写真を収集、整理し、その撮影地点の特定作業および写真撮影を行った。本文では、福井震災および五六豪雪の写真の一部を紹介する。

2. 福井震災

写真-1 の右側で左方向に大きく傾斜している建物が大和デパートであり、北側から撮影されたものである。1937 年に建設され 1945 年の空襲でビル内部が丸焼けになり、その後修復されたが福井地震により無残にも崩壊した。当時、福井市内には約 47 の鉄筋コンクリート建物が存在したが、大きな被害を受けた建物のうちの 1 つがこの大和デパートで、地震直後には多くの研究者の注目を浴びた。この写真は、現地にいた進駐軍の将校、ジェームス・原谷氏が撮影した大変貴重なカラー写真である。左側にある 3 階建ての坂井ビルは地震による被害はほとんどなく、**写真-2** の左側に見えるように、震災を経て今でもなお利用されている貴重な建物の 1 つである。

写真-3 は福井城址南側の内堀とそこに架る橋を西側から撮影したものであり、城址内には福井県庁の建物があった。右側の法面が堀の方向に滑り出し、大きな亀裂が何本も道路に生じている様子が分かる。**写真-4** は現在の様子であり、城址内には今も福井県庁が存在している。

写真-5 は京福電鉄本丸岡駅を西側から撮影したものであり、左側手前にある駅舎が完全に倒壊している。



写真-1 大和デパート（朝日新聞社）



写真-2 現在の様子

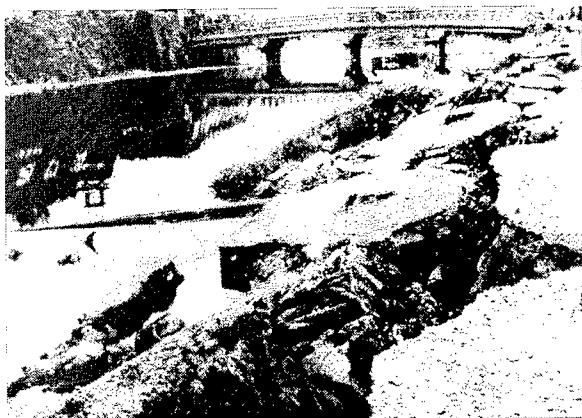


写真-3 福井城址 (福井新聞社)

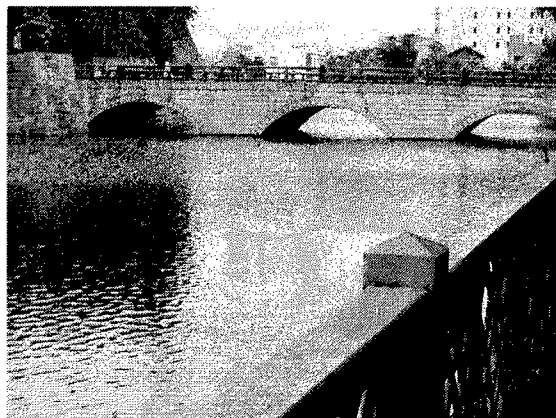


写真-4 現在の様子

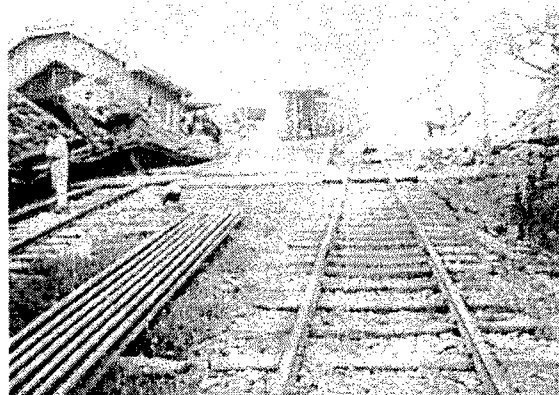


写真-5 京福電鉄本丸岡駅 (日本映画新社)



写真-6 現在の様子



写真-7 勝山市本町通り (福井新聞社)



写真-8 現在の様子

当時の本丸岡駅は丸岡線と永平寺線の分岐駅となっており、近くの丸岡線では走行中の電車が水田の中に転倒し多数の死者を出した。現在では両路線とも廃線となっているが、写真-6 のとおり修復された駅舎が京福バスのターミナルとして利用されている。

3. 五六豪雪

写真-7 は勝山市中心部にある本町通り商店街を南側から撮影したものであり、1階の軒先まで積もった雪の上を歩く人の姿が見える。北谷地区では450cmという県内最深積雪量を記録し、死者1名、負傷者7名、全壊32棟、半壊12棟という大被害を受けた。この商店街では例年歳の市が開かれていたが、この大雪のため中止となった。写真-8 の左側の薬店など現在も営業を続ける店もあるが、更地や店を閉めた所も多い。

4. おわりに

今後は、収集した各災害の写真と被害概要、また、その地点が現在の風景に至るまでの変遷の経緯などをデジタルデータとしてまとめ、地域住民の防災意識向上のためのツールとして広く公開していく予定である。なお、本研究は平成13年度福井県初等中等教育研究奨励事業の補助を受けており記して謝意を表する。